立山黒部アルペンルート

第５１期　報　告　書

平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日

室　堂　平

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）

平成２９年度の事業概況についてご報告申しあげます。

当期のわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善傾向を背景に、緩やかな回復基調で推移しましたが、その一方で、米国新政権の政策や北朝鮮問題等の地政学的リスク、さらには国際金融市場の変動等、依然として先行き不透明な状態が続きました。

観光業界におきましては、訪日旅行では、航空路線の拡充やクルーズ船寄港数の増加等が寄与し、特に韓国人旅客が大幅に増える等、平成２９年の訪日旅客総数が過去最高の２，８６９万人に達した一方、国内旅行も堅調に推移いたしました。

このような中、当期は、立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、４月１０日に弥陀ヶ原ホテルが、そして４月１５日にホテル立山が営業を再開し、弥陀ヶ原ホテルは１１月５日まで、ホテル立山は１１月３０日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、ホテル立山の宿泊収入に関しては、宿泊単価を見直したことにより収入を確保し、食堂、売店においても訪日外国人を中心に利用が増加したため、前年を上回りました。また、弥陀ヶ原ホテルは、台風、長雨等の天候不順の影響で苦戦しました。

その結果、ホテル立山は、宿泊人員が３４，１９７人（対前年９８％）となり、宿泊収入は対前年１０３％、食堂収入は対前年１０３％、売店収入は対前年１０８％、収入合計では対前年１０４％となりました。

また、弥陀ヶ原ホテルは、宿泊人員が１６，９４１人（対前年９１％）となり、宿泊収入は対前年９８％、食堂収入は対前年９９％、売店収入は対前年８８％、収入合計では対前年９７％となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、冬期シーズンは前年を上回ったものの、他のシーズンが苦戦したため低調な動きとなりました。

これにより、宿泊人員は２１，３６１人（対前年９１％）となり、宿泊収入は対前年９３％、売店等を加えた収入合計では、対前年９１％となりました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山収入７億８９百万円（対前年１０３％）、弥陀ヶ原ホテル収入３億９３百万円（対前年９７％）、宇奈月国際ホテル収入３億７５百万円（対前年９１％）、室堂飲食及び物品販売収入１０億４４百万円（対前年１０６％）となり、これにビル賃貸収入１億７６百万円（対前年１０１％）を加えた売上高合計は　２７億７９百万円（対前年１０１％）となりました。さらに、営業外収益１１百万円を加えた収益合計は２７億９１百万円（対前年１０１％）となった次第であります。

次に営業費につきましては、経営全般にわたる効率化に努めましたが、人件費、減価償却費等が増加した結果、営業外費用を含めた費用合計は２７億７７百万円（対前年１０２％）となりました。

以上により、当期の経常利益は１３百万円となり、さらに特別損失、法人税等および法人税等調整額を差し引いた結果、当期純利益１，１３１千円を計上することとなりました。

ホテル立山宿泊営業成績表（平成２９年度）

項目		実績	前年比%
営業日数	日	230	100
宿泊人員	人	34,197	98
一日平均宿泊者数	人	149	97
営業収入	千円	789,787	103
宿泊収入	千円	786,682	103
雑収入	千円	3,105	103
一日平均収入	千円	3,433	102
客室数	室	85	100
延使用客室数	室	14,957	98
客室回転率	%	77	98
宿泊定員	人	284	100
宿泊効率	%	56	98

（備考）営業期間(当期)：平成29年４月15日～平成29年11月30日(宿泊日数229日)
営業期間(前期)：平成28年４月16日～平成28年11月30日(宿泊日数228日)

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（平成２９年度）

項目		実績	前年比%
営業日数	日	230	100
室堂到達人員	人	753,551	102
営業収入	千円	1,044,062	106
食堂収入	千円	360,082	103
喫茶収入	千円	119,224	108
売店収入	千円	556,024	108
雑収入	千円	8,730	100
一日平均収入	千円	4,539	105
営業収入／室堂到達人員	円	1,385	104

（備考）営業期間(当期)：平成29年４月15日～平成29年11月30日
営業期間(前期)：平成28年４月16日～平成28年11月30日

弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成２９年度）

項目		実績	前年比%
営業日数	日	210	100
宿泊人員	人	16,941	91
一日平均宿泊者数	人	81	91
営業収入	千円	393,799	97
宿泊収入	千円	325,598	98
雑収入	千円	578	40
食堂収入	千円	40,863	99
売店収入	千円	26,759	88
一日平均収入	千円	1,875	97
客室数	室	52	100
延使用客室数	室	7,483	92
客室回転率	%	69	92
宿泊定員	人	175	101
宿泊効率	%	47	91

（備考）営業期間(当期)：平成29年４月10日～平成29年11月５日(宿泊日数209日)
営業期間(前期)：平成28年４月10日～平成28年11月４日(宿泊日数208日)

宇奈月国際ホテル営業成績表（平成２９年度）

項目		実績	前年比%
営業日数	日	365	100
宿泊人員	人	21,361	91
一日平均宿泊者数	人	59	92
営業収入	千円	375,266	91
宿泊収入	千円	320,223	93
追加飲食収入	千円	21,765	87
施設利用収入	千円	4,927	74
日帰り収入	千円	4,194	46
売店収入	千円	21,061	82
雑収入	千円	3,094	85
一日平均収入	千円	1,028	91
客室数	室	64	100
延使用客室数	室	8,876	94
客室回転率	%	38	93
宿泊定員	人	304	100
宿泊効率	%	19	90

（備考）営業期間(当期)：平成29年４月1日～平成30年３月31日
営業期間(前期)：平成28年４月1日～平成29年３月31日

財産および損益の状況の推移

区分	第４８期（平成26年度）	第４９期（平成27年度）	第５０期（平成28年度）	第５１期(当期)（平成29年度）
売上高（千円）	2,622,243	2,932,350	2,749,662	2,779,295
当期純利益(損失)（千円）	△35,250	94,391	18,542	1,131
１株当たり当期純利益(損失)	△33円61銭	104円87銭	20円60銭	1円26銭
総資産（千円）	1,881,278	2,119,321	2,026,301	1,993,223

平成３０年度の取り組み

観光業界では、価格競争と観光地間競合により、引き続き厳しい経営環境が予想されます。その中で、効率的な事業運営と収益の確保に努め、経営基盤の安定化をはかってまいります。

１営業施策

政府は、「明日の日本を支える観光ビジョン」として、２０２０年までに、訪日外国人客を４千万人まで増やすとする目標を掲げていますが、その実現には、地方に点在する多様な観光資源を磨き上げ、広く紹介することで、東海道沿線のいわゆる「ゴールデンルート」への一極集中から地方へと、旅客流動を拡散していく必要があります。その施策の中で、環境省は、全国の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化し、外国人利用客を１，０００万人まで増やそうと、「国立公園満喫プロジェクト」と題した数々の取り組みを進めています。立山黒部アルペンルートにおける訪日外国人客も、毎年過去最高を更新する勢いで増加しておりますが、こうした機運に乗じて、雄大な山岳景観を活かした魅力の創出とその発信に努めてまいりたいと存じます。

近年の旅客の個人化に対応するため、自社インターネットプランの拡充を進めるとともに海外予約サイトの販売強化に努めてまいります。多様化する旅客ニーズに合わせた商品を造成し、きめ細やかな情報発信を継続的に進め、安定した顧客の獲得に結びつけてまいります。

これまでも好評をいただいております「雪の大谷散策」や「星空観察会」などのイベント・アクティビティーにつきましても、引き続きホテル三館それぞれの特徴を生かしながら企画の充実に努めてまいります。

また、シーズン毎の適正な客種、適正な客単価の設定や、全館貸切企画の増販、さらに、団体昼食においては、効率化と差別化を両立させるため、各施設の独自性を出した高単価・差別化メニューの拡充等の営業施策により、収益確保に繋げてまいりたいと存じます。

お越しいただいたお客様には、基本的な接遇の徹底と、各館の特徴を踏まえたサービスの提供を通じて、顧客満足度の向上を図り、リピーターの確保に努めてまいります。

２宿泊・食品の安全確保と自然保護

お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう、施設や食品の安全には、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、そして食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

また、環境に配慮した施設設備の維持更新、ごみ処理対策の徹底等、引き続き、立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

これからも、佐伯初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築に全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申しあげます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

（平成３０年３月３１日現在）　（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	620	流動負債	215
現金及び預金	522	支払手形	3
売掛金	6	買掛金	11
未収金	10	短期借入金	60
未収還付法人税等	6	未払金	63
商品	2	未払費用	7
貯蔵品	49	未払法人税等	6
前払金	6	未払消費税等	8
前払費用	0	預り金	16
繰延税金資産	13	賞与引当金	35
その他	0	前受収益	2
固定資産	1,373	固定負債	653
有形固定資産	1,168	長期借入金	120
建物	573	退職給付引当金	531
建物附属設備	295	長期未払金	2
構築物	88		
機械及び装置	10	負債合計	868
車両及び運搬具	9	（純資産の部）	
器具及び備品	43		
土地	119	株主資本	1,209
建設仮勘定	27	資本金	900
無形固定資産	5	利益剰余金	309
ソフトウェア	4	その他利益剰余金	309
電話加入権	1	繰越利益剰余金	309
投資その他の資産	198		
投資有価証券	92	評価・換算差額等	△85
関係会社株式	35	その他有価証券評価差額金	△85
繰延税金資産	40	純資産合計	1,124
その他	31		
資産合計	1,993	負債・純資産合計	1,993

損益計算書の要旨

（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）（単位：百万円）

科目	金額
売上高	2,779
売上原価	767
売上総利益	2,011
販売費及び一般管理費	2,007
営業利益	4
営業外収益	11
営業外費用	2
経常利益	13
特別損失	3
税引前当期純利益	9
法人税、住民税及び事業税	1
法人税等調整額	6
当期純利益	1

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

株主資本等変動計算書

（平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日まで）　（単位：百万円）

	株主資本				評価・換算差額等	
	資本金	利益剰余金		株主資本合計		純資産合計
		その他利益剰余金	利益剰余金合計		その他有価証券評価差額金	
		繰越利益剰余金				
当期首残高	900	308	308	1,208	△65	1,142
当期変動額						
当期純利益		1	1	1		1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					△19	△19
当期変動額合計	－	1	1	1	△19	△18
当期末残高	900	309	309	1,209	△85	1,124

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員　（平成30年６月28日現在）

●設立年月日
　昭和４２年１２月２４日

●資本金
　９億円

●発行済株式総数
　９００，０００株

●株主数
　２名　　立山黒部貫光株式会社
　　富山地方鉄道株式会社

●役　員

代表取締役社長		佐伯　博
専務取締役		永崎泰雄
常務取締役	総務部長	新森雅夫
常務取締役	経営企画室長	中川　修
常務取締役	ホテル営業部長	石野一美
取締役		辻川　徹
取締役		見角　要
取締役	技術環境部長	高江　均
取締役	経理部長	中村直幸
監査役		川嶋芳明
監査役		中田邦彦

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（ＴＫＲ）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（ＴＫＲ）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（ＴＫＡ）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	ＴＫＡ第３４回取締役会で新会社（ＴＫＫ）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（ＴＫＫ）設立(資本金４億円)
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（ＴＫＴ）設立(資本金3,000万円)
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道　桂台～美女平間供用開始（ＴＫＡ）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	ＴＫＫとＴＫＡが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（ＴＫＳ）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルＴＫＲから経営受託
17年10月 1日	ＴＫＫとＴＫＲが合併 （存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルＴＫＫから経営受託

ホテル3館のご案内

立山黒部アルペンルート

ホテル立山

〒930-1414富山県中新川郡立山町芦峅寺室堂
☎(076)463-3345　FAX(076)463-3348
https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/

弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412富山県中新川郡立山町芦峅寺弥陀ヶ原
☎(076)442-2222　FAX(076)442-2242
https://midagahara.alpen-route.co.jp/

宇　奈　月　温　泉

黒部峡谷宇奈月温泉 宇奈月国際ホテル

〒938-0282富山県黒部市宇奈月温泉7-26
☎(0765)62-1236　FAX(0765)62-1808
https://unazukikokusai.alpen-route.co.jp/

（編集･発行）立山貫光ターミナル株式会社
〒930-8558富山県富山市桜町1-1-36
☎(076)441-3331(代表)　FAX(076)433-1185